令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	子供	対象学年・取り扱った教科等	全校生徒・総合的な学習の時間	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	生徒総会（４月）において決議した「いじめ・いやがらせに関する７つの提言（平成２８年制定）」の改訂を踏まえ、その取組状況を確認する生徒会の取組（自治活動）と連動し、法的専門家からの講話により、人権を尊重する自主的な取組の価値づけをおこなうことで、全校生徒の人権意識の向上を図ることとする。
実施した内容	○生徒会による取組（実態調査の結果報告、全校生徒への呼びかけ） ○講演会 演　題；「こどもの権利とＳＮＳによる違法行為　～判断できる人になるために～」 講　師；南部富士法律事務所　弁護士　畠山将樹　氏（岩手県教育委員会　委員）
工夫した点	○花巻市が推進する「いじめ防止を考える日（毎年6月1日）」に合わせ、生徒会において全校生徒の「いじめ・いやがらせに関する８つの提言」に対する取組の実態調査の結果報告及び呼びかけをおこない、その後、法的な視点から弁護士から講演をいただいた。 ○生徒誰もが権利を持つことを「こどもの権利条約」から説明いただき、その侵害は許されないことを、いじめ及び「ＳＮＳによる人権侵害（いじめ・画像等の無断送信・誹謗中傷）」の具体例から生徒のみならず教職員も人権を学ぶ機会とした。 ○人権意識の定着をはかるために「第４２回全国中学生人権作文コンテスト」への作文応募を全校生徒で取り組むこととした。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科（公民的分野「基本的人権」）、技術科（情報モラル）、道徳
事業成果	○5月に実施した講演のねらい「誰にでも人権があり、自分以外の人を大切にする生活ができていますか」について12月に追跡調査をおこなったところ、99．6%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）5月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）5月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）5月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8% ○「あなたは、SNSに人が嫌な思いをする書き込みや画像等の投稿をすることを許さない態度を身につけていますか」の生徒の変容　R5）5月調査：93．2%　→　R5）12月調査：98．6% ○「第42回全国中学生人権作文コンテスト」岩手県大会において、1名の生徒が「優良賞」を受賞。また、地方新聞に人権教育研究指定校の取組に係る記事として掲載され、県内に周知した。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	女性	対象学年・取り扱った教科等	全校生徒・総合的な学習の時間	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	生徒自身が最も強く感じ、また身近に感じている人権問題（差別・偏見）である「男女差別」を取り上げ、男女の性別を問わない「人としての生き方」を考え、男女共同参画の態度を養うことで、人権感覚の向上を図る。
実施した内容	○講演会 演　題；「偏見を超えて　～男らしさ・女らしさ、男なのに・女なのに～」 講　師；いわてライフキャリアラボ　代表/CEO ファザーリング・ジャパン東北　岩手代表　　後藤大平　氏
工夫した点	○令和４年５月の「人権教育研究推進事業」開始時に実施した本校生徒の人権問題（差別・偏見）に対する認識調査において、社会・世の中に存在する人権問題（今日的人権課題）の中で最も強く感じているものが「男女差別」であった。また、生徒にとって幼少期からこれまでの生活の中で実体験として差別・偏見を感じている身近な問題であり、体験的な講演をとおして旧態依然の価値観の払拭と男女共同参画の態度をはぐくむこととした。 ○ひとりの若い父親であり、「イクメン（男性の育児参画）」を実践する団体の代表である講師を迎え、子育て及び家族のあり方から「人としての生き方」を考える機会を設け、人権感覚の向上を図ることとした。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科（公民的分野「基本的人権」・「平等権」・「家族のあり方」）、家庭科（家庭生活）、道徳
事業成果	○7月に実施した講演のねらい「性差で差別することなく、人として接する生活ができていますか」について12月に追跡調査をおこなったところ、98．2%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）5月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）5月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）5月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8% ○地方新聞に人権教育研究指定校の取組に係る記事として掲載され、県内に周知した。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校		
人権課題	北朝鮮当局による拉致問題等	対象学年・取り扱った教科等	全校生徒、道徳・特別活動（集会活動）	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	政府拉致問題対策本部主催の「拉致問題に関する中学生サミット」に、岩手県代表生徒として本校生徒が出席するにあたり、全校生徒が「拉致問題」に対する理解を深めるとともに、ひとりひとりの権利は誰にも侵害されるものではないという認識を確認する機会とする。
実施した内容	○拉致問題啓発アニメ「めぐみ」視聴会 ○「拉致問題に関する中学生サミット」への参加生徒の決意発表 ○「拉致問題に関する中学生サミット」への参加生徒の参加報告会
工夫した点	○８月開催の政府拉致問題対策本部主催「拉致問題に関する中学生サミット」に岩手県代表生徒として本校生徒が出席するにあたり、心のユニバーサルデザイン及び人権感覚の養成に取り組む本校生徒全員が「拉致問題」に向き合い、理解を深めることことととした。 ○集会活動と一体的に取り組み、サミット参加代表生徒の決意表明を併せておこない、送り出す機会（７月）とサミット参加報告の機会（９月）を設けるとともに、本校の取組を新聞報道により県内周知にあたった。 ○意識の向上を図るために、「北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール２０２３」への作文応募に取り組むこととした。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科（公民的分野「基本的人権」・「国際問題」）、道徳
事業成果	○7月に実施した講演のねらい「当たり前に生きる権利を奪うことは許さない生活ができていますか」について12月に追跡調査をおこなったところ、99．3%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）5月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）5月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）5月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8% ○「北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール2023」において、本校が「団体賞」を受賞。 また、地方新聞に拉致問題に係る中学生サミットへの参加生徒が紹介され、県内に周知した。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	全校生徒・総合的な学習の時間・音楽科	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	性的マイノリティ（少数派）の人権を尊重し、誰もが住みやすい社会を築くためにLGBTQに対する理解を深めるとともに、県内在住の講師を招くことで身近にいること、またカミングアウトできずに悩んでいる人が多くいることに対して思いを寄せ、人権感覚の向上を図る。
実施した内容	○講演会 演　題；「自分らしくあるために　～LGBTQを考える～」 講　師；津軽三味線奏者　三代目　井上成美　氏（本名　藤村由慈　氏）
工夫した点	○７月に実施した「男女差別」に係る講演により、「男女の性別を問わない人としての生き方」を考えた全校生徒に、県内在住の「性同一性障がい」をカミングアウト・性転換手術をされた方を紹介し、実体験及び思いを講演いただくことで「性を超えた人としての生き方」に共感し、ＬＧＢＴＱ（性的マイノリティ）に対する理解を促した。 ○人としての生き方に「性」は関係なく、プロの津軽三味線奏者である講師に三味線の生演奏をとおして自らの生き方を伝えていただくことで、生徒自身の生き方を考えさせる機会とした。

令和６年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科（公民的分野「基本的人権」）、音楽科（和楽器）、保健体育（性教育）、道徳
事業成果	○9月に実施した講演のねらい「性的マイノリティ（少数派）に思いを寄せる生活ができていますか」について12月に追跡調査をおこなったところ、98．9%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）5月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）5月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）5月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8%

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	アイヌの人々	対象学年・取り扱った教科等	１年生・社会科 ２年生・社会科	時数等	２時間 ２時間

目標・人権教育のねらい	中央政権から差別・迫害を受けてきた郷土（蝦夷）の歴史及び現在においても社会的な認識が欠落しているアイヌに対する理解を深め、社会科「歴史・地理」の教科書の内容をより深く理解するとともに「人としての生き方」を考える機会を設け、人権感覚の向上を図る。
実施した内容	（１）２年生「地理」；「アイヌ民族」交流会〔９月実施〕 ゲストティーチャー；橋本政彦氏・橋本夫持子氏（盛岡市在住アイヌ） （２）１年生「歴史」；アニメ「アテルイ」視聴会〔１０月実施〕 （岩手発信の文化創造運動の一環として、岩手県で制作されたアニメ）
工夫した点	○社会科の歴史的分野「古代東北（大和朝廷による東北征伐で支配される蝦夷）」及び地理的分野「北海道（明治以降、先住民族のアイヌが中央政府に差別・迫害される歴史、現在も残る偏見）」の学習を、平面的な理解（教科書記載の用語としての理解）ではなく立体的に理解（人として、現実問題としての理解）できるように、発達段階に応じてアニメ及びゲスト・ティーチャーとして接することで情感に訴え、人権感覚をはぐくむ教科指導をおこなうこととした。 ○郷土の歴史理解及び県内在住のアイヌの方を講師として迎えることで、身近な問題として生徒の理解を促すこととした。また、アイヌの優れた文化を理解するために、アイヌ民族の音楽・歌唱（歌詞及び精神性の説明含む）を聴くを機会を設けた。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科（公民的分野「基本的人権」・歴史的分野「古代史・郷土史」・地理的分野「北海道」）、音楽科（民族音楽）、道徳
事業成果	○9月に2年生で実施した交流会のねらい「差別を受けてきたアイヌ民族の人権に思いを寄せる意識が高まりましたか」について12月に追跡調査をおこなったところ、94．8%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○10月に1年生で実施したアニメ視聴会のねらい「権力者から迫害・差別される人々の思いを理解しましたか」について、12月に追跡調査をおこなったところ、98．9%の生徒が肯定的を回答をしている。 ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）5月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）5月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）5月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8% ○地方新聞に人権教育研究指定校の取組に係る記事として掲載され、県内に周知した。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	外国人	対象学年・取り扱った教科等	２年生・家庭科	時数等	３時間

目標・人権教育のねらい	２年生家庭科の授業において、花巻在住のパキスタン人との調理実習を通した交流を図り、イスラム文化圏に対する理解を深めるとともに、在日外国人が身近な地域の構成員であり、相互理解が重要であることを考える機会を設け、人権感覚の向上を図る。
実施した内容	２年生　家庭科「調理実習（世界の食文化）」〔３学級×各１時間〕 ゲストティーチャー；アフタブ・シャジア・ラウリーン　氏（花巻在住パキスタン人） 通　訳；瀧澤・クリスティーン・アリアナ（花巻国際交流協会職員・アメリカ人）
工夫した点	○花巻空港を有し、国際交流都市を目指す本市において、花巻国際交流協会との連携を図り、市内在住の外国人との交流により異文化を理解するとともに、外国人の在日生活における苦労を理解することとした。 ○パキスタン料理の調理実習という共同作業・交流をとおして、外国人に対する偏見を払拭し、異文化を理解するとともに、互いの考え方・価値観を尊重して、地域において共生するために必要な態度を育成することとした。 ○各学級１時間の家庭科の授業（調理実習）とし、パキスタン人及び通訳（アメリカ人）との交流時間を十分にとることができるようにした。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科（歴史的分野「イスラム教」・地理的分野「西アジア」）、道徳
事業成果	○10月に実施した交流会のねらい「自分とは異なる生活・文化を理解する意識が高まりましたか」について12月に追跡調査をおこなったところ、96．9%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）5月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）5月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）5月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8% ○地方テレビ局のニュース（2局）で人権教育研究指定校の取組に係る記事として報道され、県内に周知した。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	子供	対象学年・取り扱った教科等	３年生・社会科	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	３年生社会科「公民的分野」の授業として、ユニセフ・キャラバン・キャンペーン「ユニセフ教室」をにより“こどもの権利”及び“貧困問題の現状”と“国際機関（ユニセフ）の果たす役割”を深く理解し、世界の子どもたちのために自分にできることを考える機会を設け、人権感覚の向上を図る。
実施した内容	○ユニセフ・キャラバン・キャンペーン「ユニセフ教室」（後援；外務省・文科省） 講師；日本ユニセフ協会　学校事業部　副部長　鈴木有紀子　氏 主任　高円承子　氏
工夫した点	○事業計画では、３年生社会科「公民的分野（人権問題）」において、アイヌとのオンライン交流を予定していたが、岩手県を訪問するユニセフ・キャラバン・キャンペーンにおける「ユニセフ教室」訪問校となったことから、３年生の社会科において取り組む人権課題を「アイヌ」から「こども」に変更しておこなった。 ○世界のこどもを取り巻く厳しい現状を動画を使用し、現実を直視するように視覚に訴え、水がめ・疫病予防の蚊帳・栄養失調の様子を測る上腕測定メジャー等に実際に触れて、体験的に学習する講演をおこない、こどもの人権が侵害されている現状を学ぶ機会とした。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科（地理的分野「アフリカ」「東南アジア」、歴史的分野「国際連合」）、道徳
事業成果	○11月に実施した講演のねらい「子どもを取り巻く現状を理解し、自分にできることで行動しようと思いましたか」について、12月に追跡調査をおこなったところ、98．9%の生徒が肯定的回答をしている。 ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）5月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）5月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）5月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8% ○今後、日本ユニセフ協会のHP及び機関紙等により、本校での取組が紹介される予定である。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	その他（自己肯定感）	対象学年・取り扱った教科等	全校生徒・学級活動	時数等	１時間

目標・人権教育のねらい	人権感覚をはぐくむワークショップ・プログラムにより、主体的に学習活動に参加し、協力的に活動・体験しながら人権感覚の育成にあたるとともに、授業参観に合わせておこなうことで家庭における人権意識の共通基盤の構築にあたる。
実施した内容	○「人権感覚養成プログラム（埼玉県教育委員会作成）」によるワークショップ １・２年生；「新しい大陸に向けた航海　～大切なのは・・・何？～」 ３年生；「あなたは何を持っていきますか？～その時、あなたは！～」 ファシリテーター；各学級担任（授業参観に合わせて実施）
工夫した点	○埼玉県における人権教育の推進を学ぶために訪問した令和２・３年度人権教育研究指定校である先進校（埼玉県入間市立金子中学校）の視察成果として、教師の人権意識の向上を図り、生徒が体験的・協力的・体験的に人権について考える「人権感覚養成プログラム」を学級活動でおこなうこととした。 ○「人権教育養成プログラム（埼玉県教育員会作成）」の中から、本校の生徒の現状を踏まえて４つをテーマを選び、学級担任がファシリテーターをしやすいように、同プログラム流用しながら改訂版として授業展開案・学習シート・パワーポイントを作成し、提示した。 ○保護者に生徒の人権意識の現状を理解していただくとともに、家庭において人権意識の共通基盤を構築していだだくよう授業参観に合わせて実施することとした。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	道徳、特別活動（「自治・人権」・「東日本大震災津波からの復興教育」）
事業成果	○11月に実施したワークショップのねらい「自分の考えを伝え、相手の意見を受け入れることができましたか」について、12月に追跡調査をおこなったところ、96．4%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○「まわりの人とのコミュニケーションを深めようと努めていますか」についての生徒の変容 R5）5月調査：90．0%　→　R5）12月調査：93．8% ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）5月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）5月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）5月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8%

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	外国人	対象学年・取り扱った教科等	２年生・英語科	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	「人種のるつぼ」と呼ばれる多様な人種を有するアメリカの中高生に対して、インタビュー・ゲーム（交流）をおこなうことで、考え方や価値観の違いを理解し、互いに尊重し合う気持ちを高めることで、人権意識の向上を図る。
実施した内容	○花巻市国際交流都市ホットスプリングス市の中高生との国際交流 来校者；２０名 通　訳；花巻国際交流協会　職員３名
工夫した点	○生徒を４～５人の少人数グループに分け、各グループに来校中高生（アメリカ人）を１人配置してのインタビュー・ゲーム（交流）をおこない、意図的に相互の意見交換・コミュニケーションを図るようにした。 ○全員がインタビューする分担を決めながらも、即興で会話が弾むように全体進行を促し、様々な人種との交流の中で、日本人とは異なる考え方・価値観に触れ、相互に尊重する気持ちをはぐくむように促した。 ○国際交流を推進する団体が市内にあることを生徒に認識させるために、花巻国際交流協会の通訳３名をインタビュー・ゲームに積極的に関わらせることとした。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科（地理的分野「アメリカ」）、道徳
事業成果	○6月に実施した本事業のねらい;「あなたは、自分とは異なる生活・文化を理解する意識が高まりましたか」について、12月に追跡調査をおこなったところ、96．9%の生徒が肯定的な回答をしている。 ○「様々な価値観を尊重しようとする態度（みんな違ってみんないい）を身につけていますか」 についての生徒の変容　R5）5月調査：92．8%　→　R5）12月調査：98．9% ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面;「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）5月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面;「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）5月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面;「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）5月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8%

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	高齢者	対象学年・取り扱った教科等	全校生徒・家庭科・理科・生徒会活動等	時数等	通年

目標・人権教育のねらい	地域人材（主に高齢者）と一緒に教育活動に取り組む「地域とともにある教育活動（コミュニティスクール）」の推進をとおして、世代間交流による多様な価値観及び高齢者理解にあたり、人権感覚の向上にあたる。
実施した内容	「コミュニティ・スクール」として地域人材（主として高齢者）を学校に招く等により実施する地域学校連携事業を、令和5年度は下記のとおり実施して日常的な交流を図った。 （１）家 庭 科 ・・・ミシン実習、浴衣の着付け、調理実習（イワシの手さばき） （２）理　　科 ・・・地域の自然観察 （３）生 徒 会 ・・・千羽鶴の「鶴の折り方」教室 （４）読書推進・・・絵本の読み聞かせ、工作教室 （５）福祉理解・・・認知症理解講座 （６）地域活動・・・街頭募金活動〔校外活動〕
工夫した点	○令和４年度より「地域とともにある教育活動（コミュニティスクール）」に取り組み、１年間を通して地域人材（主に高齢者）が校内に常駐したり、一緒に教育活動にあたったりして、学校外の人材の多様な価値観に触れる機会を設けてきた。 ○様々な専門的な知識・技能を持った地域人材を招き、教育効果の向上を図るとともに、地域人材との触れ合いを通して高齢者への理解を促した。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	道徳
事業成果	○「まわりの人とのコミュニケーションを深めようと努めていますか」の生徒の変容 R5）５月調査：90．0％　→　R5）12月調査：93．8％ ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）５月調査：92．1％　→　R5）12月調査：100％ ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）５月調査：78．5％　→　R5）12月調査：86．2％ ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）５月調査：85．7％　→　R5）12月調査：93．8％

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	岩手県	学校名	花巻市立花巻北中学校

人権課題	インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	全校生徒・総合的な学習の時間	時数等	２時間

目標・人権教育のねらい	ひとりひとりにタブレット端末が配付されて授業や家庭学習がおこなわれる中、「使用のルール」の定着が課題としてあげられる。また、生徒の約８割が自分専用のスマホを所持し、ＳＮＳ上でのやりとりにより人間関係のトラブルを助長している現状から、自身の使い方を振り返り、相手の人権を侵害しない正しい使い方の理解を深める。
実施した内容	○講演会 演　題；「正しく怖がるインターネット　～事例に学ぶ情報モラル～」 講　師；グリー株式会社　社会貢献チームマネージャー　小木曽　健　氏
工夫した点	○技術科における「情報モラル」の学習内容との連携を図りながら、具体的な事例を題材に問題点を整理し、適切な使い方についての講演となるよう、事前打ち合せをおこなった。 ○インターネット（及び接続するスマホ・タブレット等の端末）は人間が使う「道具」であり、人の“意思”により使われ方が左右されることから、使用にあたっては“人としての心”の持ち方が大切であることをお話いただくこととした。 ○ただし、ネガティブな話一辺倒にならないよう、インターネットは「社会を変える、人の生活を便利に・豊かにする道具」であることを理解させ、その進化に対応する能力がこれからの社会を生きる生徒にとって必要な“生きる力”であることをポジティブに理解させ、正しい使い方の必要性を捉えさせた。

令和５年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	社会科（公民的分野「基本的人権」）、技術科・道徳
事業成果	○「あなたは、SNSに人が嫌な思いをする書き込みや画像等の投稿をすることを許さない態度を身につけていますか」　R5）５月調査：93．2%　→　R5）12月調査：98．6% ○講演直後の調査によると、「インターネットを安全に利用するための正しいルールや注意点について理解しましたか」に対する肯定的回答は100%であった。 ○3側面ごとの評価（対象；全校生徒）は、以下のとおりである。 ・知識的側面；「まわりの人をいつも大切にしている」 R5）５月調査：92．1%　→　R5）12月調査：100% ・価値、態度的側面；「よりよい社会・学校づくり（自治）に進んで参加している」 R5）５月調査：78．5%　→　R5）12月調査：86．2% ・技能的側面；「困っている人がいたら、見て見ぬ振りをせず行動に移す」 R5）５月調査：85．7%　→　R5）12月調査：93．8%